「 スペースカプセル　Space Capsule 」

日本バイオサイエンス株式会社が生命科学の理想から考案した**“特注”**の夢空間です。
非日常の空間において、精神面と身体を活性化させる物質（セラトニン、オキシトシン、ドーパミンなど）の分泌を促すことをめざしています。



日本バイオサイエンス株式会社の企画で生産を始めた「スペースカプセル　Space Capsule」の活用想像図　（画像制作　斎藤和文様）



千葉の蓮沼に設置した実物（エクセルタイプ　11型）









これからオーナー様が装飾したり、備品を揃えたりして、実際に使用することになります。
（これは通関して、現地に運び、設置したばかりの状態です）







「スペースカプセル（Space Capsule」」のさまざまなデザイン

























千葉　九十九里浜　蓮沼エリア　Ｙ様（すでに納品済み）



長野　山下様ご発注（現在製作中）



千葉　五島様ご発注（現在製作中）

私たちの歩み

1972年から始まる私たちの事業は、最初に株式会社国際経済協力機構が誕生し、日本経済新聞社や電通などのマーケティング受託から始まりました。

創業者の岩本和久が中国政府の顧問に就任した1900年代が、私達の急成長の時期になり、世界42都市に活動拠点が広がりました。
（西はケニア、東はニューヨーク、北はハルピン、南はスリランカまで展開）
当時、日本から海外へ進出する企業の、現地における法律手続、現地政府との交渉、経済トラブルの調停、などが主な業務内容でした。
各国の政府機関とさまざまな深い関係が生まれたのも、この時期でした。

岩本が中国政府の顧問を引退したあと、ミャンマーの友人が大統領に就任し、ミンシュエ総理も友人であったことから、内戦で発展が遅れていたミャンマーの政府公社の総裁に就任しました。（選挙でスーチーさん陣営と交代するまで）

これらと並行して、（岩本は医学研究者の家系であったため）医学の研究者として「予防医学」の研究も続けておりました。
病気にならないための予防食や改善食を研究しており、日本バイオサイエンス株式会社を設立して、予防食品を生産・販売しております。
そのような流れのなかで、薬草やキノコなどを栽培するためのスペースが必要になり、そこで初めてスペースハウスの輸入を始めました。

時が流れ、スペースハウスの生産工場（中国）も、今ではさらに大発展し、カプセルハウスまでも生産できるように成長しました。
私たちは、そこに日本のノウハウを組み込み、日本向けの高品質の「カプセルハウス」を生産し、日本のお客様にお届けしています。
このような歴史ゆえ、私たちのグループでは、「日本バイオサイエンス株式会社」が“ペースカプセル（カプセルハウス）“の取扱窓口になっています。

私たちは“高強度”で“高安全性”のスペースカプセルのメーカーをめざします。
（カプセルハウスというものは、鉄骨や窓ガラスなど、低品質の材料を使って
手を抜けば、いくらでも安く作れます。 その代わり安全性を担保できません）
私たちは、このような安全を保てない低品質の安物ハウスは製造いたしません。